

東日本大震災災害活動報告

福島県いわき市消防団 団長 麻原 秀雄



初めに、未曾有の大災害である「東日本大震災」が発生し、いわき市におきましても甚大な被害を受けましたが、全国各地の皆様から様々な御支援と御協力をいただきましたこと、この場をお借りいたしまして心より御礼を申し上げます。

3月11日の14時46分頃に発生した、三陸沖を震源とするマグニチュード9.0の巨大地震は、当市におきましても震度6弱を観測、特に沿岸部においては、想定を超えた津波により、多数の死者・行方不明者が発生するなど甚大な被害を被りました。

管内の被害状況につきましては、9月13日現在、死者309名、行方不明者38名、住家被害は、58,529戸に及び、当市消防団の被害も公務外による死者が2名、詰所の全壊12棟、半壊4棟、一部損壊36棟、消防車両につきましては、全損16台、一部破損14台の被害を受けました。

当市消防団の活動状況につきましては、震災直後から電話等の通信手段が使用出来ない状況下でありましたが、当市防災計画に基づ



津波によりなぎ倒された
ホース乾燥塔と基礎だけが残された詰所跡

き、団員各自が詰所に参集し、管轄地域における被害状況の把握に努めるとともに警戒活動を行いました。

また、沿岸部地域においては、大津波警報発令に伴い、地区住民等への広報活動や避難誘導活動を行い、津波発生後には、家屋から逃げ遅れた地区住民の救助活動や避難誘導活動、負傷者の搬送活動等を行いました。

内陸部の地域におきましても、震災直後から、市内各地の避難所等の補助活動や、給水活動にあたるなど、不眠不休で活動しており



消防団詰所にて救援物資等を配付する消防団員と
列に並び順番を待つ市民



市内各所において実施されていた
消防団員による給水活動



津波により壊滅的な被害を受けたいわき市薄磯地区

ました。

その後につきましては、市内各地が断水し、生活物資の流通も滞る状況が続いたことから、市災害対策本部等からの要請により、給水活動や食糧配布の広報・配布活動を実施するとともに、東京電力(株)福島第一原子力発電所の事故発生の際には、屋内退避広報や安定ヨウ素剤の配布といった広報活動、そして、沿岸部地域においては、それらの活動に加え、



放射線防護服を着用し搜索活動する消防団員



津波により引きちぎられた消防団車両

津波による行方不明者の搜索活動といった様々な活動を行いました。

消防団の出動状況は、3月11日より4月25・26日の沿岸部における集中搜索の実施まで、延べ14,026人が出動し、上記活動に従事しました。

特に、団員自らが被災し、かつ東京電力(株)福島第一原子力発電所の事故に伴う、放射能汚染といった、今まで経験したことのない状況下にあっても市民の生命と財産を守る為、各種活動を実施した団員各位に対しては、深く感謝したいと思います。

なお、今回の大震災を振り返り、消防団活動を行うにあたっての課題につきましては、発災直後の数日間、電話等の通信手段が使用できない状況であったことから、各地の被害状況、特に沿岸部地域の津波による被害状況を把握することによりかなりの時間を費やしてしまったことや、原子力発電所の事故発生以後、数週間は、市内の物流が滞る状況となり、燃料が不足したことから、様々な活動を行うにも支障が出るといった状況等があげられます。

これらの課題につきましては、今後検証を重ね、更なる防災体制の確立を図る為、改善する対策を見出す必要があると思われま

す。終わりに、まだまだ、余震が続き、予断を許さない状況下ではありますが、今後は、いわき市消防団も「がんばっぺ!いわき」を合言葉に、当市の復旧・復興に協力していきたいと考えておりますので、皆様の益々の御支援と御協力をお願いいたします。



津波により壊滅的な被害を受けたいわき市久ノ浜地区